

令和4年9月15日

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構長候補者の決定について

大学共同利用機関法人  
情報・システム研究機構

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構では、現機構長 藤井 良一が令和5年3月31日をもって任期満了となることに伴い、機構長選考・監察会議において、次期機構長候補者の選考を行った結果、下記のとおり機構長候補者を決定しましたのでお知らせいたします。

記

(きつれがわ まさる)

喜 連 川 優

〔 現職：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構理事・  
国立情報学研究所長 〕

(任期：令和5年4月1日～令和9年3月31日(4年))

(添付資料)

- ・ 機構長候補者選考結果について
- ・ 機構長候補者の経歴書
- ・ 次期機構長選考基準

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構長候補者  
選考結果について

情報・システム研究機構長選考・監察会議（以下「機構長選考会議」という。）は、以下のとおり次期機構長候補者を決定しましたのでお知らせします。

1 機構長候補者氏名

喜 連 川 優 氏

2 任期

令和5年4月1日～令和9年3月31日（4年）

3 選考理由

機構長選考会議は、機構長選考・監察会議規則等に則り厳正な手続き・方法により選考を行い、喜連川 優 氏を次期機構長候補者として決定した。

喜連川 優 氏は、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構の次期機構長選考基準に定める資質と能力を十分に備え、本機構をとりまく状況を的確に把握し、強力なリーダーシップと総合的なマネジメント能力を発揮することが期待できる。

また、生命、地球・環境、人間・社会など複雑な現象に関する問題を情報とシステムの観点から捉え、解決することを通じて、共同利用・共同研究体制を強化・発展させ、大学の機能強化に貢献し、さらに、総合研究大学院大学等との連携を通じ、高度な研究者・技術者の育成を推進し、日本全体の競争力向上に寄与することが期待できる人物であり、次期機構長候補者として最も適任であると認めた。

4 選考経過

(1) 令和4年4月1日（金）

機構長候補者選考日程を機構及び各機関の掲示板等に公示した。

(2) 令和4年5月9日（月）～令和4年5月31日（火）

機構長選考規則第5条に基づき、第一次機構長候補適任者（以下「一次適任者」という。）の推薦を求めた結果、3名の推薦があった。

(3) 令和4年6月20日(月)

機構長選考規則第6条に基づき、推薦を受けた一次適任者について審議し、第二次機構長候補適任者(以下「二次適任者」という。)3名を選出した。

(4) 令和4年7月1日(金)～令和4年8月1日(月)

機構長選考規則第7条第2項に基づき、二次適任者3名に意思確認を行ったところ、2名より同意書、所信調書及び経歴書の提出があり、1名より辞退届の提出があった。

(5) 令和4年9月12日(月)

機構長選考規則第7条第3項に基づき、同意のあった二次適任者2名について、個別に面談を実施し、投票を行った結果、喜連川 優氏を機構長候補者とすることを決定した。

令和4年9月12日

情報・システム研究機構長選考・監察会議

# 経 歴 書

ふりがな 氏 名	きつれがわ まさる 喜連川 優	生年月日	1955年7月13日 (67歳)
年 月	【学 歴】		
1978	3	東京大学工学部電子工学科卒業	
1980	3	東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻修士課程修了	
1983	3	東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程修了	
1983	3	工学博士 (東京大学)	
年 月	【職 歴】		
1983	4	東京大学生産技術研究所講師	
1984	5	東京大学生産技術研究所助教授	
1997	7	東京大学生産技術研究所教授	
1998	4	東京大学生産技術研究所概念情報工学研究センター長	
2003	4	東京大学生産技術研究所戦略情報融合国際研究センター長 (2013年3月まで)	
2008	4	文部科学省科学官 (2012年3月まで)	
2010	4	東京大学地球観測データ統融合連携研究機構長 (2014年3月まで)	
2011	10	日本学術会議会員 (2017年9月まで)	
2013	4	国立情報学研究所長 (現在に至る)	
2017	10	日本学術会議連携会員 (現在に至る)	
2018	6	日本データベース学会会長 (2022年6月まで)	
2019	4	情報・システム研究機構理事 (現在に至る)	
2021	4	東京大学特別教授 (現在に至る)	
専門分野：情報工学			

## 次期機構長選考基準

令和4年2月9日

情報・システム研究機構長選考会議

### 1 情報・システム研究機構長に求められる資質・能力

大学共同利用機関法人は、機構の強み・特色を最大限活かした共同利用・共同研究体制を強化・発展させることにより、大学の機能強化へ貢献し、さらには日本全体の競争力向上に寄与することが求められている。

情報・システム研究機構は、生命、地球・環境、人間・社会など複雑な現象に関する問題を情報とシステムの観点から捉え、解決することを基本的な理念としている。

特に、大規模データから有益な情報や知識を獲得し、複雑な現象の解明、予測及び意思決定を行うためのデータ駆動型の研究方法の確立が、科学技術の発展や社会のイノベーションの鍵となっている。

そのため、機構長には、それらの実現を追求する強い意志を有するとともに、次のような資質と能力が求められる。

- ・ 人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学共同利用機関における教育研究活動を適切かつ効果的に運営できる。
- ・ 機構及び機構を構成する各機関のミッションを踏まえた長期的な視野を持ち、中期目標・中期計画を着実に実行するリーダーシップとマネジメント力を有する。
- ・ 大学共同利用機関としての特性を生かし、総合研究大学院大学等との連携を通じ、高度な研究者・技術者の育成を推進する。
- ・ 柔軟な発想で新たな知の開拓、異分野融合、新領域の創出を推進し、我が国及び世界の学術の発展に寄与する。

### 2 情報・システム研究機構長選考の手続き・方法

情報・システム研究機構長選考会議は、情報・システム研究機構長選考規則及び情報・システム研究機構長選考実施細則等に基づき、厳正な手続き・方法により機構長候補者を選考する。